

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3491500348		
法人名	株式会社 プロケア		
事業所名	グループホーム桜並木		
所在地 (電話番号)	福山市三吉町5丁目3番5号	(電話)	084-973-2573
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6番29号(財)広島県健康福祉センター内		
訪問調査日	2009.2.16	評価確定日	平成21年3月13日

## 【情報提供票より】( H.21年 2月 3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	11.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋 造り	
	5 階建ての	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	1 名
年齢 平均	84 歳	最低	73 歳
		最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院三愛
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ建物にグループホームと有料老人ホームがある複合施設で、合同の行事や利用者の行き来による行動範囲の広がりや協力体制もできている。1日2回の状態把握による健康管理と協力医療機関との連携も密で、必要に応じて夜間対応も可能で、医療面で、家族の安心につながっている。地域とのつながりを大切にしながら、家庭的な温かい雰囲気の中で、穏やかな生活が送れるように心がけている。利用者と一緒に過ごすことを大切に、利用者と職員がゆったりと会話を楽しむ光景が見られ、じっくりと話ができる時間を大切にしたいケアを実践しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題は、地域とのつながりを密にしていこうと、業務日誌をわかりやすくする事が上げられた。運営推進会議により地域の行事への参加、施設行事への地域からのボランティアでの参加があり、改善がみられる。業務日誌についても改善がみられるが、今後もよりやりやすくなるように検討を重ねていける事を期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価を実施する意義について、職員全員への周知徹底は今一歩であり、職員全員で自己評価に取り組むことはできていないが、ホームの全体会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月ごとに開催される運営推進会議を通して、地域の情報を集め、町内会へも加入し、利用者と一緒に行事に参加し交流を図り、地域とのつながりが密になりつつある。行事を通じて地域との行き来や、つながりが出来ており相談もしやすくなっている。今後は課題解決に向けて協議し、共に取り組んでいくためにも、連携の場として、運営推進会議への参加など市町村担当者ともっと積極的に関わりを持つことが望まれます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議で意見を出してもらったり、家族への連絡時や来所時に意見を聞く機会をもうけている。また、家族が思いや気づきを遠慮なく伝えられるように施設内に意見箱を設置している。契約時には相談担当者が説明をし、相談しやすい雰囲気を作っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園児と交流したり、町内会へ加入し、利用者と一緒に地域の行事(餅つき、とんど等)に積極的に参加している。当ホームの秋祭りには地域の人がボランティアで参加し交流を深めている。また、地域に向けての広報誌の作成を検討中である。災害時、地域の人々の協力は不可欠なので、運営推進会議で協力を呼びかけ、地域の消防団等の協力を得、地域を交えて、一緒に夜間も想定した避難訓練ができることを期待します。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることができるように、職員全員で作り上げた、事業所独自の理念をユニットごとに掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとのミーティングで話し合い、意識づけを行い、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児と交流したり、町内会へ加入し、利用者と一緒に地域の行事(餅つき、とんど等)に積極的に参加している。当ホームの秋祭りには、地域の人がボランティアで参加し交流を深めている。また、地域に向けての広報誌の作成を検討中である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義について、職員全員への周知徹底は今一歩であり、職員全員で自己評価に取り組むことはできていないが、ホームの全体会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。		サービス評価の意義や目的を運営者や管理者が職員にわかりやすく伝え、全員が前向きに自己評価に取り組むことで、日々のケアの振り返りや見直しが可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていくことが望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごと開催される運営推進会議では、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し、活動報告を行い、参加者からの意見や要望をサービスの改善に向けた取り組みに具体的に活かしている。会議を通して、地域の情報を集め、町内会へも加入し、利用者と一緒に行事に参加し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へ出向き、担当者と情報交換を行い、サービスの円滑化を図っている。		課題解決に向けて協議し、共に取り組んでいくためにも、連携の場として、運営推進会議への参加など市町村担当者ともっと積極的に関わりを持つことが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	さくらメールを毎月郵送し、体調等の変化は、随時電話連絡をしている。毎月の支払いの来所時には、家族へホームでの様子を伝えている。面会にこれない家族には、手紙にて近況報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を出してもらったり、家族への連絡時や来所時に意見を聞く機会をもうけている。また、家族が思いや気づきを遠慮なく伝えられるように施設内に意見箱を設置している。契約時には相談担当者が説明をし、相談しやすい雰囲気を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職はほとんどない。2ユニットはオープンで自由に交流し、職員は18人の利用者全員の申し送りを聞き、申し送りノートを必ず見ることによって情報を共有し、顔馴染みの関係になっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の研修への参加はあまりできていないが、施設内研修の計画を検討中である。		今後は、計画的に、段階に応じた研修への参加と、全職員が共有できるよう報告する機会を作ることが望まれます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターとの交流や勉強会に参加しているが、同業者との交流はできていない。		外部研修を活用するなどして同業者とのネットワークづくりを行い、サービス提供に関する情報や意見交換を通じて、サービスの質の向上につなげられることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初の不安解消のために、職員と一緒に寝てもらったり、帰宅願望が強い時は拒否せず受け入れる姿勢で、「お茶を一杯飲んで帰ってはどうか。」と、声掛けするなど、職員は気長に対応している。また、入居前に、見学してもらうことから始めたり、ゆっくりと場の雰囲気に馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム全体が家族と思ひ、お互いが協働しながら、共に分かち合い、支えあい、自然と笑顔があふれる生活ができるように対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向は、日々の寄り添いや会話の中から、汲み取るように努めている。困難な場合は、面会時など家族からも情報を得ながら、本人の視点に立ち検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、職員は担当制で利用者をより深く知ることからケアを進めている。定期的なミーティングのなかで、職員全員の意見を反映し、一人ひとりの希望に沿った暮らしができるように、本人の意向や家族の要望も取り入れた個別の介護計画を作成している。		日頃のかかわりの中で、一人ひとりの利用者の情報を蓄積し、家族との連携を深め、利用者のより良いケアの実践を期待します。さらに「～したい」ことをひきだす視点を大切に、より具体的な計画の作成が望まれます。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの定期的な見直しを行っている。変更が必要な時は、職員の気づきや情報を確認し、本人や家族の意向や要望に応じて新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の場合、家族の状況に応じて、個別にかかりつけ医への受診介助を行っている。同建物にある有料老人ホームでの大正琴の演奏会や踊りの催しへ参加したり、お互いの看護職員との緊急時の連携も取れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する、かかりつけ医との連携及び、協力病院での週1回の訪問診察や定期的な健康診断の実施など、適切な医療を受けられる体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの経験はなく、ほとんどが病院への入院となっている。		今後は、重度者や終末期の人を対象としていない場合でも、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、関係職員全員で、ホームとしての支援の限界を明らかにし基準を設けるなど、方針の統一や体制作りに取り組むことを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を損なわないように、言葉かけや対応に十分に配慮している。個人情報の取り扱いには、本人、家族に同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合わせて、朝食時間の変更をしたり、一人ひとりの思いやペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、専門業者の配食を利用しているが、たまには、うどん作り等、利用者と一緒に作ることもある。食後の片付け(食器拭き等)は、利用者の得意なことを活かして役割を担ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて、週3回は入浴している。今のところ、毎日の入浴希望はないが、今後の検討課題である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人、家族より、生活歴を聞きながら、編み物などの趣味、梅干をつけたり、うどんをうったり、日常生活の中で経験や知恵が発揮できる場面作りを個別につくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近所へ散歩に出かけたり、月1回は、利用者の声を聞きながら、海や美術館、博物館、城址公園等に外出している。同建物の有料老人ホームや他のユニットへ遊びに出かけたりして、気分転換を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面しているため、安全面から施錠し、家族の了解を得ている。運営者及び全ての職員は、鍵を掛ける弊害を十分理解しており、利用者が出て行く気配を感じたら、さりげなく声をかけたり一緒に歩いていくなど、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2年に1回、職員と利用者が一緒に避難訓練をしているが、地域との連携はできていない。		今後は、地域の人々の協力は不可欠なので、運営推進会議で協力を呼びかけ、地域の消防団等の協力を得、地域を交えて、一緒に夜間も想定した避難訓練ができることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、1300～1500kcalで対応している。利用者によっては、量を減らす事でカロリー調整したり、食べやすいようにおにぎりに変えたり、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。水分は、毎食と10:00、15:00のおやつに摂取し、1300～1500mlを確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、利用者が作った作品や雛人形を飾る等、季節感を出す工夫をしている。掃除がゆきとどき、清潔感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が使っていたタンス、小物等を持ち込み、今まで住んでいた場所と同じように、安心して過ごせる環境を作っている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム桜並木

評価年月日 H21年2月16日

記入年月日 H21年2月3日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 主任 氏名 古川 直弘

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員で話し合っていて決めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	気になった事などミーティングにて話し合い取り決めをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議で家族や地域と密着できるよう話している。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の行事に参加したり、事業所の行事に参加してもらったりと、地域との交流は盛んである。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事の参加等で交流を深めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方々に対して、広報誌を発行し、地域高齢者の暮らしに役立ててもらおうよう努力している。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	徐々にではあるが改善してきている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、意見交換や、活動報告をし、サービスの向上に活かされている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	分からない事や相談は、市の担当者に電話、もしくは直接行き来し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会は実施していない。		勉強会をもち、活用できるようにする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等で話し合い防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者が対応し、十分な説明をしている。不安や疑問点も聞き、理解・納得してもらっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見箱を設けている。それ以外でもその都度対応している。外部への相談窓口の連絡先も教えている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回の面会時には、利用者の近況報告をしている。その他の報告も個々に合わせてしている。面会に来られない人には手紙にて報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に外部への相談窓口の連絡先を伝えている。また、施設内に意見箱を設置している。その他はその都度対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見のある場合はミーティングにて対応している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等で職員を沢山確保したいときには、対応している。その他の場合は話し合いをして調整している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動もユニット同士での異動にし、最小限に抑えている。利用者への大きな負担がないように考慮している。</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修はほとんど受けていない。</p>		<p>施設内研修、現任研修を計画中</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センター等と交流をもち、勉強会に参加している。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員不足でストレスを抱えている職員もいる。</p>		<p>人員整備をし、環境を整える。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>向上心を持って働けるように、研修への働きかけをしてモチベーションの維持・向上に努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>アセスメントをしっかりと、希望に添えられるように努力している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時にはなるべく沢山話ができるような機会を作っている。できる範囲で対応している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容にもよるが、優先順位をつけて対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	なるべく本人の生活リズムを崩さないような環境作りをするように努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族の一員のような対応をし、ある程度の信頼関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	信頼関係を築けるよう、沢山話せるようにしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の良い事、出来た事を中心に家族に話し、良い関係になるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居時に馴染みの物をなるべく持ってきてもっている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の人間関係も把握し、孤立しないように努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約終了しても良い関係が築けるように心がけている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>なるべく意向に添えられるようにしている。 困難な時は家族に相談している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居時に生活歴等を聞き、サービス利用時に活かしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>アセスメント・モニタリングをしっかりとし、現状を把握するよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティング等で出たアイデアを活かせるように担当者が考え、良いケアができるような介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランは6ヶ月更新だが、変更しないといけなくなった場合はその都度更新している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はケース記録に記入し、その情報を見たり、話し合ったりしてケアプランを作成している。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	できる範囲で柔軟に対応している。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員を通して地域の中に飛び出せるような支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	定期的ではないが、必要性のある場合には他の事業者と連携をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとはそこまでの状態に至っていない。		地域包括支援センターと協働していけるように働きかける。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	総合病院三愛と連携をとり、適切な医療提供を受けている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	総合病院三愛の医師と連携をとりながら支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設している施設より看護師が日々の健康管理・相談等をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中は病院に一任している為、情報は入ってこない。		入院中の様子や退院に向けた支援を働きかけていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>家族と話し合い、病院と連携している。            必要なら家族同伴で受診している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者をよく見極め、主治医に細かな相談等をしている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>家族に利用者の情報交換を細かくしているので、住み替えのダメージは少ないと思われる。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>声かけや対応は、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>時間がかかったり、少し間違えた行動をとっても、見極めて効果的な対応をとるようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>なるべく本人のペースで1日が進むように臨機応変に対応している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	服を選べる人には自分で選んでもらうようにしている。 理容も柔軟に対応できるように整備している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備・片付けはできる人にはしてもらっている。 出来る事を出来る範囲でしてもらっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	提供できるものに限りがある為、本人の望むものばかりを提供する事はできない。		家族と相談して対応していく。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	アセスメントをしっかり取り、本人のパターン・習慣を活かして対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在、入浴日を設定している。		いつでも入浴できる体制を整えると可能。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時間等本人に合わせている。 起床時間も本人に合わせて対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	本人の好む話、趣味等を活かし、個別に対応している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルを防ぐ為、原則金銭の所持は控えさせてもらっている。		金銭の所持について柔軟に対応できるか検討の必要あり。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近所の散歩程度の外出は日頃対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出行事を計画し、普段行けないところへ出かける機会を作っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話をかけたいと言われれば、職員がかけて支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は設けているが、気軽に訪問してもらっている。その際、居心地の良い環境も提供している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないよう努力はしているが、必要な場合、家族と話し合って拘束する場合もある。		ゼロになるよう努力していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施設外の交通量が激しい為、鍵を使用している。		鍵をかけないケアが実践できるように検討する必要あり。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に安全に配慮しながら対応している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状態・状況に応じて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止に取り組んでいるが、もっと知識を付ける必要がある。		勉強会等を開催していく。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	ある程度の応急・緊急対応は備えている。その後は病院と連携をとるように指導している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難方法は訓練しているが、地域との協力が得られるかは不明である。		地域と連携をとれるようにしておく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族には説明・報告・相談をし、個別に対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化が見られた場合は、なるべく早い対応をとるように指導している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新たな薬が処方されれば、確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘にならないよう個別に対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアも個別に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の下、配食サービスなので栄養バランスはとれている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	対応策を考え、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	配食サービスの為、食材は使用していない。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を植えたりして明るくしてはいるが、玄関等分りにくい仕組みになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を生けたりして季節感を出す工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話スペースを作っているの、利用者同士自由に使っている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく使い慣れた物を持って来てもらうよう声かけをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節等は細かく行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり等で安全かつ自立生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	なるべく本人の力で生活してもらえるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	小さいが庭を造り、活動できるようにしている。		